

平成29年度 学校研究

1 研究主題

確かな学力を身に付け、すすんで学び合う子どもの育成（1年次）

2 主題設定の理由

本研究は、3年次計画の1年目である。昨年度までは、「かかわりの中で意欲的に学ぶ子どもの育成」という研究主題のもと、算数と道徳を通して研究をすすめてきた。その中で、教材・子ども・教師という3つの視点のそれぞれのかかわりの中で意欲的に学ぶ子どもの姿を、実践を通して確認し合うことができた。

その一方で、「かかわり合いの中で、同じ土俵に立てない子どもがいる。」「授業で子どもたちが『わかった』と感じ学習意欲が高まっても、テスト等で確実な点数がとれず、学力が定着していないと感じる。」「個別に配慮を要する児童が増えていると感じているが、十分に対応しきれていない。という、指導者側の悩みも出てきた。

また、昨年12月にとった児童アンケートの結果から、友達との学び合いを好んでいる児童が7割を超えている一方で「算数は好きだが、だんだん難しくなるとわからなくなり、自信がなくなる。」と、上学年に上がるにつれて学習に対する不安が生まれていることが明らかになった。

以上、現在の本校の実態を受けて、もう一度原点に立ち返り、「学力の基盤」を形成した上で、本校で捉える子どもたちの学び合う力の育成と、確かな学力を身に付けさせていきたいと考え、本研究に取り組んでいくものとする。

なお、本主題に基づく研究実践は、山形県の教育目標「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」、本校の教育目標「高きを求め、気品を備え、たくましく生きる琢成の子ども」、本年度の重点目標「自尊感情を高め、主体的な学びを拓く」の具現化にもつながるものであると考える。

3 育てたい子どもの姿

- ① 基礎的・基本的な知識及び技能を、自分の学びとして習得する子。
- ② 自分の学びをいかして、友達とすすんで学び合おうとする子。

4 めざす授業像

- ① 「つきたい力」を焦点化した授業展開や単元構成が工夫された授業。
- ② すすんで学び合うための、学習形態や場の設定が工夫された授業。

5 研究の視点

【視点1】「学力の基盤」を身に付けさせる手立て・工夫

- 一斉指導の中で、UDの視点を取り入れる（視覚化・見通し等）
- 個への支援や配慮（課題の与え方・TTの工夫等）
- つきたい力を焦点化させるための授業展開・単元構成の工夫
- 板書とノートの一体化

【視点2】「すすんで学び合う力」を身に付けさせる手立て・工夫

- 学び合う姿勢作り（日常において）
- 語彙力を増やす工夫（日常において）
- 学習形態の工夫
- 場の設定の工夫
- 学び合いを高めるための評価の工夫

本校では、「学力の基盤」「学び合う力」「確かな学力」を以下のように捉える。

学習の基盤…基礎的・基本的な知識及び技能を、自分の学びとして習得すること。（基盤）

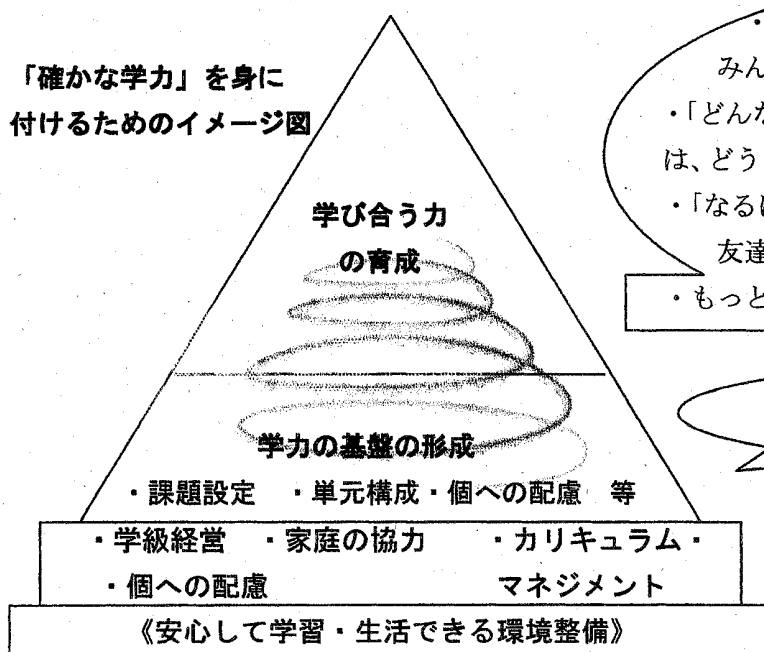
学び合う力…各教科で習得した概念や考え方を活用した「見方・考え方」を働かせ、自己の考えを形成し、思いを基に、伝え合い高め合うこと。「深い学び」の実現。

確かな学力…主体性を持って、友だちと協働して学ぶ態度。

- ・自ら答えを見出していく思考力・判断力・表現力
- ・十分な知識・技能

《子どもの意識・つぶやきのイメージ》

「確かな学力」を身に
付けるためのイメージ図



- ・「ぼく（私）は、こう思うんだけど、みんな（〇〇さん）は、どう思う？」
- ・「どんな方法があるだろう。」「わかりやすく伝えるには、どうしたらいいだろう」「1番わかりやすいのは？」
- ・「なるほど。こんな考え方もあったんだ。」「自分と友達の間違点と違う点は、どこだろう。」
- ・もっと、調べてみよう。

「できた。」「わかって楽しい。」「他の問題もやってみよう。」

9 研究全体構想図

